

報復的大量不当処分に怒りの総決起!

三里塚・ジェット闘争貫徹! 「国鉄35万人体制」粉碎!



46期長期強靱を抗議・撤回闘争へ

国鉄当局は、四月三日、午前一〇時、わが動労千葉が労農連帯と組織をかけて闘い抜いた三月ジェット決戦ストライキに対し、公労法解雇四名、停職六名を含めた二二五名におよぶ大量不当処分を発表した。われわれは、この報復的大量不当処分を断じて許すことなく、怒りも新たに組織の総力をあげて四月六日を期して長期強じんな反処分・抗議の闘いに突入することを明らかにする。この闘いは、「ストなし春闘」策動を大きく打ち破り、「生活防衛・反合・三里塚春闘」勝利へ向けた爆発的高揚を必ずやつくりだすであろうこと、さらに国鉄三五万人体制攻撃粉碎・第二、第三の三月ジェット決戦貫徹へ向けた全国的高揚を生み出すであろう。

階級的憎悪むき出しの報復処分攻撃!

この大量不当処分の発表は、動労千葉の三月ジェット決戦スト貫徹が、政府・支配者階級がめざす八三年改憲・軍事大国化政策の基本路線に肉迫し、根底から揺がす質をもった闘いであり、それゆえに、階級的憎悪をむき出しにした超反動攻撃といわなければならない。

それは、塩川運輸相が「動労千葉に嚴重な処分を」と発言し、自民党労働部会が国鉄当局に処分申し入れを行ったことにも端的に示されている。さらに動労千葉が、国鉄当局秋山差別労政をもつてする三月闘争つぶし、助役機関士導入、動労「本部」革マル反動分子一体となった反動的弾圧・スト破り攻撃を粉碎し、燃料列車をはじめ、総武・内・外房線全線を完全にストップし、すさまじい大衆的実力闘争の展開を労農連帯を基軸に闘い抜いたことに対する組織破壊を企図した、国鉄労働運動史上類例のない大量不当処分攻撃である。しかも動労千葉が、八一春闘を「生活防衛・反合・三里塚春闘」と位置づけ、ストなし策動に抗し決起せんとする矢先の攻撃は、賃金抑制・合理化屈服をせまる国鉄労働運動への重大な挑戦に他ならない。

怒りの減産B行動ー 全面非協力闘争展開!

動労千葉への報復的大量不当処分は、同時に国鉄労働者総体への攻撃であり、政府・国鉄当局による「国鉄三五万人体制攻撃」「ストなし国鉄」をめざす八〇年代労務政策攻撃の出発点であり、春闘を前にしてのみせしめ的な処分発表をもって、労働者の闘い魂をうばいさるうとする攻撃である。

4/4「朝日新聞」

色を鮮明に行われた。国鉄側は動労千葉に対してのみ行われ、スト期間中に列車業務を担っていた動労千葉地本(第一機関士、六千二百人)に対しては「処分を留保する」(秋山元文文相談話)とされ、動労千葉側の反発はより強いものとなっている。

4/3「サンケイ」

えて、国鉄再建がスタートし、当事者である国鉄労働者に再建に向けての努力が求められている。また、けに、当然の厳しさといえる。しかし、国鉄当局の姿勢にも問題がある。

4/4「千葉日報」

含む)ことになるわけだが、こうした処分も「地方組織に対するもの」としては異例。国鉄千葉地方本部の組合員が去る三月四日、動労千葉に呼応する形で燃料列車の業務を拒否したことに対しては「前後の経緯から処分は留保」(千葉)とされた。さらに五十四年の「春闘」処分は、以て、動労本部、国鉄本部に無罪の処分が出ないことを考え合わせると、孤立しながら闘う組織力を誇る動労千葉に對する極めて「政治色」の強い処分であったことも事実だ。

解説

国鉄本社によると、国鉄のスト処分は最近では五十年以降、毎年行われている。このうち、解雇者が出たのは、五十二年春闘ストによる翌年四月処分の三人と、五十四年の春闘スト、同年秋の成田燃料送反対ストによる五十四年十二月処分の一人だけ。このほか、公労法によらない日本国鉄道法で昨年五月に二人が解雇されている。

明らかに政治的・差別的・不当処分!

最高は停職で解雇はなし、「実害」の少ない処分」といわれた。このときのストで動した列車が旅客、貨物あわせて二万七千本と今回の動労千葉のスト(三月六日、千四百本)の十倍以上の迷惑を新用客にかけた。一方が経済要求ストの違いはあるにせよ、国鉄当局の処分の重さ(組合員)についてどういふ印象はあられたか。

こんにちは「二〇二億スト損賠」、矢つぎ早やの大合理化攻勢に対し、屈服姿勢をつよめる国労中央や、「冬の時代」「謀略」論をもって権力・当局と結託し、スト破りを行い、動労千葉をつぶすためなら労働組合の原則すらなげすめて、「処分を要請する」にまでいたった「本部」革マル反動分子の運動ならざる運動に抗し、職場生産点の労働者のひとり、ひとりの決起をもって、この邪悪な意図をもった攻撃を粉碎してゆこうではないか。全国の動労組合員のみならず!

動労千葉は、第三回定期委・第九回支部代方針に踏まえ、四月六日を期して、怒りの減産B行動を展開し、あらゆる戦術を駆使し、処分粉碎まで粘り強く闘い抜くことを決定し、総力決起の体制を確立した。いまこそ、全国の仲間の総決起をもって、動労大改革ー国鉄労働運動の戦闘的再生をつくり出し、八一春闘の爆発的高揚をつくり出してゆこう。